

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600384		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム樽川ふれあいほうす		
所在地	石狩市樽川3条2丁目97番地		
自己評価作成日	平成23年 3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://77system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0177600384&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域のイベントや行事、他のグループホームとの交流にも積極的に参加しています。
 ・大型バスがあり、全員で出掛けられる機会が多くなります。
 ・1日の中で、少しでも多くの笑顔ができるようにスタッフ間で話し合いをしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲の山並が見渡せる緑豊かな閑静な住宅街に位置し、公園、小学校、商店も近く利便性が良い。事業所内は広く利用者の安全と快適さに配慮されており冷暖房、スプリンクラーを完備し特に各居室にはトイレ、洗面台が設置され、生活環境に恵まれている。介護体制については法人代表、管理者、職員の良好なチームワークのもと利用者本位の質の高いケアを実施している。利用者の表情は明るく家族の信頼は厚い。運営推進会議については定例に開催し、行政関係者、地域住民、家族が参加して防災、運営等について話し合い、会議内容はサービス向上に反映させている。地域との関係については夏祭りを地域の人々と共に楽しむなど、双方向での交流があり、同地区の系列事業所とは常に協力を図っている。近隣養護学校生徒の実習や就労を受け入れる等、社会への窓口も開いている。地域包括センターと連携をとりながら地域福祉に貢献し、高齢者の安心できる生活を支えている信頼できる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議の中で話し合いの場を持ち、日々のケア実践の場で立ち止まり、自ら振り返る様に心掛けている。	地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を策定している。理念は事業所内要所に掲示し職員相互が会議等で確認し実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催の大掃除や花いっぱい運動、神社祭り、中学校や高校の吹奏楽部のコンサートや、他グループホームのバザー参加など、様々な行事に参加させて頂いている。	町内会に加入し清掃行事等に参加する他、3館事業所合同の夏祭りには地域の人々が多数参加し盛大である。地域の系列障害者施設とは食材購入等で協力を得ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会等に参加している。内容は全体会議の中で報告し、情報を共有している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催の中で活動を報告し、意見や提案を頂き、サービス向上に努めています。又、地域の方々との交流の場として活用し、意見を反映できる様にしている。	2ヶ月に1度定期的に開催し記録している。包括センター職員、地域代表、家族、利用者、法人代表が参加し運営、行事、防災等について討議しサービス向上に反映させている。	推進会議は多数の参加者があり有効的に機能している。会議録は事業所内に保存しているが行政関係機関にも提出するよう準備しているので期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問等があり、ホームの状況をみていただき意見を頂いている。又、市内のグループホーム協議会の研修会にも積極的に参加するよう心がけている。	市主催の会議や研修会に出席し情報交換し協力関係を築いている。地域高齢者福祉については地域包括センター職員の事業所訪問等で日常的に連携し協力している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などの場において、身体拘束になる行為などを再確認することで、気づかないうちに身体拘束をしてしまう事のないよう心掛けている。	マニュアルを整備し内外の研修会に出席している。事業所内会議では職員間で認識を共有し身体拘束のないケアを実施している。玄関は日中は施錠せず安全に配慮しながら自由な雰囲気大切にしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、ケア会議等で話し合い、日々の言動や行動で虐待の可能性はないか、見過ごしている事はないか注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して理解できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームのケアに関する考え方や取り組みの説明を行っている。重度化や看取りについての対応など、詳細に説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方が何を考え、何をしたいのか、不満などないかをさり気なく聞き出す等思いに添える様努めている。又、スタッフ間でも共有し、反映できるようにしている。	利用者との会話や家族面談で意向を把握している。運営推進会議は家族意見を反映する場として有効である。意見箱を設置し、内部、外部への苦情相談機関窓口を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のユニット会議があり、全職員が意見を出せる様にしている。	全体会議やユニット会議に法人代表、管理者が職員と共に出席し、職員の意見や提案を聞き運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も定期的に来訪し、入居者様やスタッフと交流を持ち、向上心を引き出せるように努めている。又、研修参加や資格取得に向けての取り組みもやっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や道、協議会主催の研修に受講できるようにし、内容は全体会議にて報告し職員全員が共有出来る様にしている。又、働きながら学ぶ機会を大切にしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会議に参加して交流を深めたり、お互いにお祭りや行事に招待し合い、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族を交えた面談を通じ、入所への不安を把握し、入居後もじっくり話を聞く機会を作り、信頼関係が築ける様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでじっくりと話し合い、本人やご家族の状況を把握し、入居後も適宜報告、相談を行い、信頼関係が築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談する中で、本人やご家族の状況を把握し、何が必要なのかを話し合い、支援の方向を見極めて、柔軟に対応出来る様に心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ自分でいただき、出来ない所を支援する様にしている。又、笑いのある会話を心がけたり、良い関係が築ける様にしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、面会時等に日々に状況を詳しく伝えたくて要望等を聞くようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力を得て、買い物や理美容へ出掛けられる様支援、自宅への電話や、突然の知人の方の来訪時も、ゆっくりしていただけるよう配慮している。	買い物や馴染みの理美容院への外出を家族と共に支援している。大切な友人や家族の訪問には事業所内でゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間で利用者同士の関係についての情報を共有し、個々に合った過ごし方が出来る様に配慮、他者とのふれあいの場面作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行ったり、退院後についての相談があった際には、助言させて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズや暮らし方の希望、ご家族の思いなども含めて大切に受け止め、希望に添える生活の提供が出来る様心がけている。	日頃の関わり合いの中で本人の意向を聴き、家族情報や個人記録も参考にして個々の希望や意見の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や面会時にご家族から、会話の中で伺うようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、その時の身体的、精神的な変化を見極めながら把握する様にしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から要望や思いを聞き、その人らしく暮らせる様な計画ができる様に適宜カンファレンスを行い、個々に出した意見を反映する様に心掛けています。	本人、家族の意向を尊重し医師等の意見も参考にして職員会議で話し合い介護計画を作成している。モニタリングは定期的に行う他随時現状に即して行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々に関わりの中から気づいたことやアイデアを特記欄に記入し、情報を共有、プランに反映出来る様にしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様からの要望に添い、柔軟に外出・外泊できるように支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では民生委員の方に参加して頂き、近隣の学校との交流や避難訓練には消防署の協力を得ている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医と連携を図り、定期的受診や往診で体調の変化に配慮している。	本人、家族希望のかかりつけ医との連絡や通院支援を行なっている。提携医は月2回の定期的な往診で看護師と共に健康管理を行い常に適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の訪問で日常の健康管理をしており、24時間体制で連絡が取れる様になっている。又、日々の体調についての相談もしている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は本人への支援方法についての情報提供を行い、ご家族とも情報交換し、早期退院へ向けての連携を図っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族様より事前指定、重度化・看取りの指針について説明し、同意を得ている。又、随時意見を聞いている。	重度化、看取りの指針については早い段階に家族と話し合い文章で確認している。状態が変化した場合は医師、家族、関係者と情報を共有し連携を取りながら最善を尽くすよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術やAEDの講習会に参加し、緊急時に対応出来る様に努めている。又、緊急対応マニュアルを整備している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施、近隣の方にも参加を呼び掛けている。又、様々な防火に関する研修会にも参加している。	年2回消防署の協力のもと夜間も想定し近隣住民の協力を得て避難訓練を実施している。スプリンクラー、緊急通報装置等の設置があり防火体制を整備している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の声掛け等は、出来るだけ他者に気付かれぬよう、さりげなく声掛けするよう配慮している。	個人の人格を尊重して職員の言動に配慮している。個人情報記載書類は事務室で適切に管理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や飲みたい物、着たい服など、できるだけご本人の意思を引き出せるよう配慮している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを尊重し、日々、その方らしく暮らして頂ける様、支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や服装など、本人の意思を確認しながら一緒に準備する様心がけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞きだしてメニューに取り入れられるようにし、準備や後片付けも一緒にできるような場面作りにも配慮している。	献立は利用者の希望を取り入れている。準備は力に応じて協力できるような場面作りをし、職員と共に食卓を囲む食事は楽しみとなっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、スタッフも一緒に食事をする事で、量や好み、食べ方を把握、水分チェック表で確認しながら飲んで頂いている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声掛けや一部介助にて行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間やパターン、本人のサインなどを把握し、出来るだけトイレでして頂ける様に支援している。	動作や表情、排泄チェック表から排泄パターンを把握し、さりげなく誘導しトイレでの排泄を支援している。居室にトイレを完備し自立排泄に恵まれた環境である。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事バランスや水分摂取量を管理すると共に、排便確認や医師から処方された下剤を服用することで予防に努めている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望に沿った形で入浴して頂けるように配慮している。	週2回以上の入浴を基本としているが個々の希望やタイミングでいつでも入浴可能である。浴室の環境や言葉がけに配慮して入浴が楽しめるよう工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や気分に合わせて、ゆっくり休息できるように配慮している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり、用法・用量について把握する様努めている。又、服薬忘れ、誤薬のないよう、声をかけあっている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々によって掃除、食器拭き、音楽鑑賞など、役割や楽しみが持てる様に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物と一緒に出掛けている。又、希望に応じて近隣に住む知人宅への外出支援をしている。	日常的には畑や花壇の手入れ、近隣公園への散歩で戸外の空気に触れている。事業所の車やバスを利用して花見や雪祭り見物等普段行けない所への外出支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方については、ご家族との十分な連携を取り、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時にはゆっくりお話しして頂けるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が混乱しない程度に配置換えをしたりカーテンによる日差しの調節、花などを飾って季節感をだすよう工夫している。	玄関、廊下、トイレ、浴室等共有空間は利用者の安全と快適さに配慮されている。リビングは広くウッドデッキが設置され、窓辺には花や観葉植物を飾り季節感がある。採光、温湿度、換気も良好で居心地の良い空間を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、畳、バルコニーなど、皆さん思い思いの場所で過ごされている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談の上、ベッドやタンス、椅子やテーブルなど、使い慣れた物を持ち込んで使っている方もいる。	各居室にはトイレ、洗面所、クローゼットが設置されている。使い慣れた家具や仏壇を持ち込み家族写真や趣味の物を飾り一人ひとりが安心して過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた声掛けをし、混乱を防ぐよう配慮、対応も日々スタッフ間で話し合いをしている。		